

県立図書館だより

令和3年10月

青森県立図書館報 第41号

デジタルアーカイブから



The Gathering of Apple, Tsugami

稿 林 産 名 軽 津

『津軽名産林檎』（年代不明）

(https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/top/digital/cont/t0669_03.html)

日本のりんご栽培は、今から150年前の明治4年（1871）に始まったとされる。先人たちの創意工夫と努力の結果、全国の生産量の約6割を占めるまでになった日本一のりんご生産地・青森県では、今年もりんごの収穫が盛んに行われている。

目 次

デジタルアーカイブから	1
企画展「中南津軽文学散歩」	2
青森県立図書館情報システム更新のお知らせ	3
こどものひろば	4～6
ご存じですか？この資料 郷土資料の紹介	7
ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介	8
カウンターからひとこと	9

企画展「中南津軽文学散歩」



弘前城（サトウユウジ氏撮影）

◇会 期

令和3年10月16日(土)

～12月19日(日)

9:00～17:00

(休館:10月28日、11月10日、11月25日)

◇会 場

青森県近代文学館企画展示室

(青森県立図書館2階)

青森県の南西部は、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町及び田舎館村の三市二町二村で構成され、中南津軽地域と呼ばれています。この地で生まれ育った多くの作家が郷里を舞台とした作品を多数残し、著名な文人が中南津軽地域を作品に描きました。

明治以降に中南津軽地域(旧・浪岡町を含む)を描いた文学作品を紹介しながら、作家の直筆資料や著書を展示し、近代文学から見たこの地域の持つ魅力に迫ります。

《主な展示資料》

高橋弘希 浄書原稿「送り火」(初公開)

陸羯南 色紙(初公開)

竹久夢二 屏風

吉川英治 文学碑拓本

葛西善蔵 原稿「姉を訪ねて」(初公開)

今官一 原稿「若き日の太宰治」※11月26日から

太宰治 弘高時代の化学ノート・写真 ※11月26日から

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更になることがあります。

最新情報はホームページをご覧ください、電話 017-739-2575 までお問い合わせ下さい。

青森県立図書館情報システム更新のお知らせ

青森県立図書館と県近代文学館は、**令和4年1月12日(水)から2月21日(月)まで臨時休館し**、青森県立図書館情報システムの更新を行います。

今回のシステム更新は、現在のIT環境等に適合していない本システムの最適化に伴う県民サービスの向上と業務の効果的・効率的な運営を行うことを目的としております。

システム更新による変更点

システム更新により、新たに下記のサービス等が追加されます。

○「電子図書館サービス」

電子書籍を導入し、非来館・非接触でのご利用が可能になります。

○「座席予約システム」

来館時に館内の端末でインターネット利用席等の一部の席を予約することができます。

※通常の閲覧席及び新聞席は除く。

休館中における本の返却はブックポストをご利用ください。ブックポストは、「**図書館正面玄関脇**」と「**県庁舎北棟西側歩道脇**」(青森市新町)の2カ所に設置しています。

利用者みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

返却用ブックポストのご案内



▲県立図書館正面玄関脇(青森市荒川)のブックポスト



▲県庁舎北棟西側歩道脇(青森市新町)のブックポスト

こどものひろば



「PPAP-2020-」 ※PPAP=Pray for People And Peace（人々と平和のために祈る）という手洗い動画が公開されたのは、昨年（2019）の4月でした。

子ども達のために、とプロデュースしたのは、青森市出身の古坂大魔王さん。国内外で注目され、他にも様々な手洗い動画が登場しました。

それから1年。この夏、全国の感染者数は再び増加…。感染症対策をしっかりとしているつもりでも、ひたひたと忍びよる目に見えないウイルス。

「この秋最大のコロナ危機 終わらせよう」

知事が発したこのメッセージと、当館を含む県施設の一ヶ月間の休館は、危機感と、感染症対策への取り組みの大切さを、一層強く感じさせられました。

なかでもこの秋、変異ウイルスの発生で、子ども達にも感染が広がりだしました。換気や消毒など、対策を徹底しているご家庭でも、子ども達の予防に苦慮されているのではないのでしょうか。手洗い、うがい、マスクなどは、毎日の生活の中で自分からでき、しっかりとウイルスから守ってくれる大切な感染対策です。



しかし、感染の危険性と、対策の重要性を理解しているわたし達大人でも、不便と我慢を強いられるのは辛いことで、また、慣れてしまうとついつい忘れがちです。

まして、子ども達には、「手を洗おう」「うがいをしよう」という言葉だけでは、なかなか伝わりません。

でも、先ほどの「手洗い動画」、子ども達には大人気。子ども達に分かりやすく、楽しく伝えるには、音や映像、そして、絵本や児童書が一番です！

ここ数年、特にこの1年間、コロナをはじめ感染症のことや、それらから身を守る方法を教えてくれる絵本や児童書が増えました。

今回は、それらから、いくつか紹介します。

そもそも、ばい菌って、細菌って、なんだ？という質問に簡単に答えてくれるのは、『このほんをなめちゃダメ！ ばいきんがいっぱい』（イダン・ベン＝バラク/文 ジュリアン・フロスト/絵 福本友美子/訳 PHP 研究所 2018）です。すごいタイトルですが、なぜ、なめちゃダメなのか、細菌のミン（正体は、みんなの体の中に住んでいるあの菌だよ）が教えてくれます。

もっと詳しく知りたいお兄さん、お姉さんには、『健康のすすめ！カラダ研究所 4 ばい菌とカラダ』（石倉ヒロユキ/作 金子光延/監修 偕成社 2018）を

どうぞ。カラダ研究所の空田タローと猫の「所長」、アメリカからやってきたドクター・コートと一緒に、免疫力やウイルスのことについて、楽しく知ることができます。



子ども達が大好きな紙芝居。
『感染症予防かみしばい 知って守ろう！3つのやくそく』（教育画劇 2020）は、三部作のシリーズです。

『おばけのおうさまゴホンゴホン』（田中六大/作・絵）
咳が止まらないおばけ達に、「咳をするとき、口をおさえなくてはいけないのはなぜか」、めがねおばけが、「咳エチケット」について教えてくれます。

密閉、密集、密接の、「三密」にならない方法を教えてくれるのは、『あかずきんちゃんとウイルスおかみ』（あくざわめぐみ/作・絵）。

「三密」、ちいさな子ども達に分かってもらうには、難しいテーマです。でも、「空気のわるいむんむん」「ひとがたくさんぎゅうぎゅう」「いっぱいおしゃべりがやがや」からは逃げるんだ！と、分かりやすい言葉で伝えてくれています。



手洗いの大切さ、やり方を教えてくれるのは、『さんじょう！てあらいかめん』（よしむらあきこ/作・絵）。

手を洗わずにおやつを食べようとするひかるちゃんの前に、みんなの元気を守るヒーロー「てあらいかめん」と、ハンドソープのバブル登場！

ばい菌をやっつける手洗いの必殺技「バブルスプラッシュ」や「スリスリスライドアタック」を教えちゃいます。

さて、手を洗うのは人間だけではなくありません。手を洗う動物と言えど…、そう、消毒剤のパッケージにも登場したことがある、アライグマですね。

次に紹介するのは、手を洗うのが大好きなアライグマが登場する絵本、『あらいくん』（中川ひろたか/文 serico/絵 世界文化社 2021）です。

動物達が遊んでいる公園に、ばい菌研究所の所長さんがやってきました。みんなの手に、どれくらいのばい菌やウイルスがついているか、調べてくれます。クマさんの手も、ウサギさんの手も、みんなばい菌がうじゃうじゃ！でも、あらいくんの手だけは、所長さんもびっくりする位ぴっぴか。あらいくんが手を洗う音「ジャブジャブ チュパチュパ クチュクチュ グニュグニュ…」がとっても楽しくて、あらいくんのであらいソング「はじめに て



のひら♪」と歌いながら、ジャブジャブと、何度でも洗いたくなってしまう。

手洗いの次は「うがい」です。五羽の鶺鴒、イー、アル、サン、スー、ウーと、鶺鴒飼いのハンさんが登場する『うかいのうがい』（さくらせかい/作 ブロンズ新社 2018）は、声に出して読みたい日本語…ではなく、声に出してしたい「うがい」。



子ども達と一緒に「がらがら うーうー がらがら うー」としたくなっちゃいます。「うかい」の「うがい」とは、駄洒落かと思いきや、「うがい」の語源は「鶺鴒」からきていると、『日本国語大辞典』にも書かれていました。

元々生活の中にあった「うがい 手洗い」はともかく、外出時の手指の消毒やマスク、検温など、日常生活に浸透してきているとはいえ、子ども達にとっては、まだまだ「突然現れた、やらなきゃいけなくなったもの」に違いありません。

特にマスクは、子どもだけではなく、大人だって息苦しく、とてもわずらわしいと感じるものです。そんな「わずらわしい」の代表、マスクを絵本にしたのが、『マスクをとったら』（いりやまさとし/作 講談社 2021）です。

マスクをしているのが当たり前、そんな生活だけしか知らない、もの心ついたばかりの子ども達もいるかもしれません。「マスクを とったら なに したい？」絵本は、マスクをしたカエルにライオン、パンダ…、様々な動物達に尋ねます。みんな、自分が思いっきりしたいことを答えていきます。

子ども達はいま、みんなで大きな声で歌い、一緒にお弁当や給食を食べ、外を駆けまわり、同じ教室で勉強をして…、そんな当たり前のこともできない窮屈な世界にいます。

この状態は、いつまで続くのでしょうか。どこまで我慢すればいいのでしょうか。元の生活に戻ることができるのでしょうか。大人でさえも不安に感じます。

子ども達には、どんな未来が待っているのでしょうか。

この絵本は、明るい未来を信じて、子ども達に問いかけるのです。

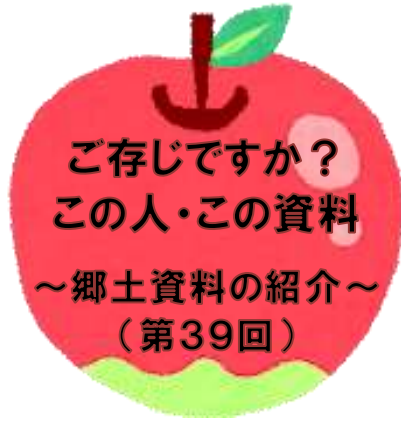
「マスクを とったら なに したい？」と。

さあ、みんな、大きな声で答えてね～！「〇〇〇〇した～い！」

どんな世界がやってきても、子ども達が好きな本を自分で選び、読むことのできる穏やかな時間を、図書館は提供し続けたい、と考えています。

ほんとうに、マスクはしなくてもよい世界がいいですね、皆さん！





2021年7月27日、第44回世界遺産委員会拡大合（オンライン開催）において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への登録が決定しました。2009年1月に世界遺産暫定一覧表に記載されてから、実に10年以上の取組が実を結びました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する17遺跡のうち、本県には三内丸山遺跡（青森市）、小牧野遺跡（青森市）、大森勝山遺跡（弘前市）、是川石器時代遺跡（八戸市）、田小屋野貝塚（つがる市）、亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）、大平山元遺跡（外ヶ浜町）、二ツ森貝塚（七戸町）の8遺跡があります。

青森県教育委員会が保存活用を進めている特別史跡三内丸山遺跡は、縄文時代前期から中期の長期間にわたって定住生活が営まれた日本最大級の集落跡で、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中核ともいえる遺跡です。三内丸山遺跡の全容解明のための発掘調査は、1992年に始まりましたが、約30年経った今もお毎年実施されており、遺跡に行くと調査の状況を見学することができます。

今回は、県内の縄文遺跡に関する当館所蔵の郷土資料を2点ご紹介します。

『三内丸山縄文ファイル』（三内丸山縄文発信の会 1995～）

1995年10月創刊号からはじまり、26年発行されている雑誌で、1号から235号までほぼ23年間の主要記事については、英文の対訳が施されています。このようにした理由は、「当時から世界遺産登録を意識した訳ではないが、不偏的な価値の高さを国際的に広く知ってもらうための努力であった」と、2021年6月号（第246号）に記されています。

各号は約12ページあり、出土記録、背景考察などのほか、県内外の遺跡紹介を所々に挟んでおり、縄文文化を詳しく解説しています。



『三内丸山遺跡と北の縄文世界（アサヒグラフ別冊3928号）』（朝日新聞社1997）

三内丸山遺跡を中心に、北海道、青森県、岩手県、秋田県の子な遺跡の紹介や、当時に出土された多種多様の土偶・土器などの遺物をカラー写真とともに解説しています。

今回ご紹介した資料は、いずれも館外への貸出が可能ですので、どうぞご利用ください。

ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介(第40回)

青森県近代文学館では、令和3年10月16日(土)から12月19日(日)まで、企画展「中南津軽文学散歩」を開催します。今回は、展示資料の中から、直筆資料を2点ご紹介します。

①陸羯南 色紙(初展示)

明治期を代表する言論人である陸羯南(くが・かつなん)は、安政4(1858)年、弘前藩士の子に生まれました。幼少期から漢学を学び、東奥義塾に入学後は、英学も学んだとい

います。

色紙には墨書で羯南の漢詩が書かれています。

虚名多俗累 薄福在塵寰 百事窮通外 一身天地間
鏡中驚白髮 車上思青山 何日烟蘿路 尋仙敲洞関※
(※空欄、改行は当館が施したものです。)

最後の行には、「丙午晩秋 羯南」とあり、明治39(1906)年に書かれたものと推察されます。

ぜひ展示室でご覧いただきたい資料です。

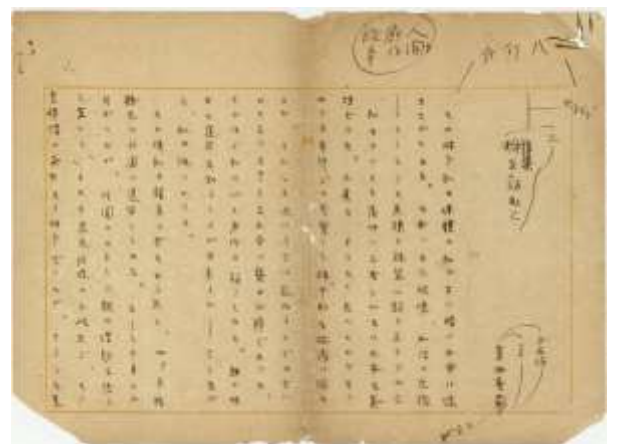


②葛西善蔵 原稿「姉を訪ねて」(初展示)

弘前出身の葛西善蔵(かさい・ぜんぞう)は、現存している原稿が少ないという定評のある作家です。

「姉を訪ねて」は、大正9(1920)年、善蔵が浪岡にある妻の実家を出発し、姉を訪ねて北海道に渡る経験に基づいた私小説です。大正10年7月に発行された雑誌「人間」第3巻第7号に、掲載されました。

原稿1枚目を見ると、はじめは「汚染」というタイトルだったことが窺えます。書き直しの過程を見ることができるのも、直筆原稿の魅力です。



本展では、他にも作家の色紙や原稿等の直筆資料を展示します。また、作家たちが描いた中南津軽の風景や魅力をパネルでご紹介しています。

展示を通して、中南津軽地域の魅力を再発見していただけたらと思います。

カウンターからひとこと (第39回)



今回は、**デージー (DAISY) 図書**についてご紹介します。

◆ デージー図書とは？

本を朗読しデジタル録音したCD-ROMです。

視覚障害の方、目の見えにくい方、活字による読書が困難な方は、どなたでも利用できます。

◆ どうやって聴くの？

一般閲覧室電源供給席で、デージー再生機とヘッドホンを使用して、ご利用になれます。

「デージー図書リスト」から読みたい図書をお選びいただき利用できますので、ご来館の際には、カウンターにお申込みください。

◆ 自宅など館外でも利用できるの？

デージー図書は、他の図書等と合わせて10点まで2週間、借りることができます。ただし、破損のおそれがあるため、返却はカウンターへお願いいたします。

◆ 館外で聴くときはどうすればいいの？

お持ちのパソコン等で、インターネットから専用のソフトをダウンロードして利用できますが、**今年度からは、デージー図書再生機の館外貸出も可能となりましたので、パソコン等をお持ちでない方でも利用しやすくなりました。**



デージー図書再生機

デージー図書再生機を
借りたい方は、
一般閲覧室カウンターへ
お越しください

